

2022  
空色ポスト



浮かべる想い、たぐる気持ち 青空に託して



2022年10月下旬から11月上旬にかけて、香川大学医学部附属病院の中庭で「2022空色ポスト」というイベントが開催されました。中庭に浮かべられたのは、色とりどりの風船。それぞれに手紙が結びつけられています。

このイベントは、附属病院の再開発工事で殺風景になってしまっ

た病院の中庭を、患者さんやご家族の方が安らぐことのできる場所にできないかと考えた職員が、創造工学部造形・メディアデザインコースの大場晴夫教授に依頼したことで始まりました。コロナ禍で、心にぽっかり穴が空いたような気持ちを、病院の中庭の空間が象徴しているように感じた大場教授は、場所を使って人々の想いを繋ぐことができなかと考えました。参考にしたのは、欧米で盛んな「ホスピタルアート」です。これは病院にアーティストを招いて、医療従事者や学生、患者さんも一緒に行うアート活動です。

その活動を元に、造形・メディアデザインコースの学生たちが立ち上げたのが、風船に患者さんたちの想いや希望を託し、中庭の空に浮かべることで気持ちを開放するというプロジェクトです。「空色ポスト」と名付けられたこのイベントには、患者さんだけでなく附属病院の医療従事者も参加。様々な想いがこもった200通以上の手紙が、空へ届けられました。

「空色ポスト」は誰にも言えない想いを解放し、心を軽くしてくれる優しいイベント。寄せられた手紙は全て、ホームページ上で公開しています。



空色ポストのHPはこちら



患者さんにもご家族の方にも笑顔と元気を!



屋島山上  
ちようちんカフェ  
新たな屋島の  
お土産開発



伝統工芸と  
地域資源を活かした  
新たな価値を創造

**屋島山上ちようちんカフェ**

2022年8月下旬、屋島の魅力と香川の伝統工芸品である讃岐提灯をもっと多くの方に知ってもらいたいという思いから始まった「屋島山上ちようちんカフェ」を3年ぶりに開催しました。今年のテーマは「笑顔をとらす」。運営は学生プロジェクト「TERASU」と経済学部の西成研究室の学生が行っています。中心を担ったのは、入学以降コロナ禍でこのイベントを開催できずにいた世代です。中には高校時代にちようちんカフェを体験し、この様なプロジェクトを自分もやりたいと進学した学生もいました。この活動は3年生で引退となるため、3年生が運営に携わることができるのは、今回が最初で最後のチャンスでした。先輩が引退する前に一緒にちようちんカフェを開催したいという後輩たちの思いも乗せて、屋島山上ちようちんカフェ2022は開催されました。

事前準備とワークショップをあわせて、制作した提灯は500個を超え、カフェ利用者はのべ1,294名となりました。屋島の夜景と共に多くの笑顔と提灯の灯りで照らすことができました。

**新たな屋島のお土産開発**

創造工学部井藤研究室では地域資源を活かした新たな価値創造を目指して、高松市屋島山上交流拠点施設「やしまーる」の指定管理会社である株式会社イーストと連携して、新たな屋島の土産物開発を行っています。その第1弾として、やしまーるのプレオープンに合わせて、以下の3つのプロジェクトを地元企業3社との協働で実施し、販売を開始しました。販売も好調で第2段に取り掛かっています。



やしまーる売店での販売



筒井製菓 × 香川大学  
老舗の豆菓子専門店と「やしまめ」をやしまーるオリジナル豆菓子として、新しいロゴやパッケージのデザインを開発



中商事 × 香川大学  
アップサイクルの考え方で、使わない生地を活用して、「ふろしきエコバッグ」を開発



屋島山上ちようちんカフェのHPはこちら



商品開発時の企画プレゼン

ツジセイ製菓 × 香川大学  
やしまーるの建物の形を模った「やしまーるクッキー」と「やしまーるクランチチョコ」のパッケージデザインを開発



やしまーるのHPはこちら